

注) ゴシック体で記述されているものは、外部評価(学校評議員、PTA執行部及び学年選出役員)です。明朝体部分は、職員による評価です。

## 1 『樹木(グランドデザイン)の年輪(幹)となる教科の学習・ときめき学習・特別活動・道徳等の教育活動を実践して成果の見られた具体的な内容』

### (5) グランドデザインには盛り込まれていないが、樹木の年輪を刻むその他の教育活動

#### A 学年・学級経営の面から

- ・ 学年便りより

荒れてしまった中学校を立て直すことに力を注いでいる新潟大学の斉藤勉先生の話をお聞きしました。先生はどのようなことで中学は再生できると言ったのでしょうか？指導力向上？授業改善？家庭教育力を付ける？家庭と地域の学校の連携？どれも間違いではないでしょう。でも、斉藤先生はこう答えました。「一人一鉢 植物を育てさせました。」「全員にミニトマトを栽培させました。」この答えを聞き、私は、目からうろこでした。一人一鉢栽培させることには、当然意味があるのです。「指導者により差が出ない活動」に「全員で取り組む」ことで「荒れない」のです。私たち6年生スタッフもこれを心がけてきました。1組も2組も取っ払った「班構成」「共通のあいあいタイム」、「自分のクラス」「となりのクラス」という指導者の意識改革。子どもの意見を聞き、指導を根本から見直した「算数の習熟度学習」。問題の共有化。学習プリントの共有化など様々です。2学期以降も1組だけ、2組だけということではなく、「あいあい子どもたち」という見方で見ていきます。御意見、御相談がありましたら、話しやすい先生にどうぞお話しください。

学級個々のオリジナリティーも大切だが、私の経験では、学級だけでは子どもの成長に限界がある。学年という大きな枠で動くから子どもたちの成長に可能性が生まれる。また、それぞれの担任の良さを「共有化」ということが大切になるだろう。

- ・ 6年生らしく、物事を進める、全校の先頭に立つ、などの表面上スマートなものについてはどんどん成長している。しかし、心のうちを前面に出して主張する「泥臭さ」に欠ける。そのあたりを2学期は変えていきたい。なぜなら、子どもたちの中には熱い気持ちがあるから。そのために、教師自身が、喜怒哀楽をこれでもかというほど前面に出したい。
- ・ 担任の空き時間を合わせてもらい、学年会の時間としてもらったが、副任も参加できるような時間がほしい。放課後や休み時間などを使い、打ち合わせなどを行ってきたが、学習や児童の様子についてじっくり話し合う時間が必要であると思う。副任としてどうかかわっていけばよいか、難しい面があったのではないか。担任の思いや学年としての取組など、共通理解を図り、副任制をより生かしていくためにも、有効な学年会の時間を作っていきたい。
- ・ 漢字や計算などの習熟を図るため、朝学習で漢字・計算タイムを設けて実践するとともに、家庭での自主学習を習慣化させることに力を入れた。自主学習の意義について児童に考えさせ、授業参観で「自主学習は必要か否か」というテーマで本音の討論をさせた。その結果、「自主学習は自分のためにやるのだから、必要である。」という結論に達し、学級全体で自主学習にがんばって取り組むことになった。

具体的な取組は、以下のとおりである。

一人一人が自主学習計画をたてた。

どのように学習すればよいか分からない児童のために、友達の学習方法を紹介し合った。

「自主学習ファイル」を作り、カードに毎日の学習内容と時間を記入させた。

学級便りで取組を紹介し、保護者にも協力を呼びかけた。

これらの取組の結果、アンケートでは約90%の児童が、「宿題以外の自主学習に取り組んでいる」と回答した。実際のところは、自主学習の取り組みには個人差があり、どの児童も一生懸命取り組んでいるわけではない。そのような児童に対して、どんな手だてで指導するかが今後の課題である。

- ・ 今学期は、全学年・学級との交流活動に取り組めたことが大きな進展である。はじめから交流がうまくいくとは思っていなかったが、全学年・学級と交流活動をすることで、次につながる課題が見えてきたことが大きな成果である。

1つ目として、通常学年・学級の児童との間接的なかわりではなく、直接的なかわりが

必要であることである。集団対集団では、なかなか人間関係は深まりにくい。そのため、集団を小さくしたり、二人組にしたりすることで、直接的なかかわりの場（会話、握手など）が生まれ、関係をもつきっかけになることができると考える。

2つ目として、活動を対象児童に応じたものにするのである。やはり、通常学年・学級児童が考えた活動は難しく、自分で動けるまでに時間がかかったり、担任の支援が常に必要であったりした。対象児童に応じた活動を設定するために、次回は自らが活動を考え、交流会を開催するようにしてみたい。

3つ目として、交流活動は継続性が重要である。1回きりの交流では、何の意味ももたないと言っても過言ではない。やはり、交流活動は経験を広めるだけでなく、社会性や豊かな人間関係をはぐくむ場である。交流活動を2、3回と継続していく中で、相手とのかかわり方が見えてきたり、集団の雰囲気にも慣れてきたりするのである。計画の段階から、継続的に取り組める活動を考えていく必要がある。

- ・ 学年会の時間が設定されているので、学年の問題点を話し合うことができた。1年生では、子ども同士のトラブルへの対応が多かったが、少しずつ前向きな話し合いができるようになってきた。
- ・ 各学年に副任が加わり、協力して指導にあたることができ、よかった。
- ・ 副任が配置されたことで、多くの目で子どもをみとることができるようになったと思う。わたし自身も分からないことや困ったことがあると、すぐに相談できて安定した気持ちで学級経営に取り組めた。ただ、学年会の時間が月曜5校時に設定されているが、子どもを帰しているとその時間に学年会を行うことができなかつた。2学期は日時をしっかりと決めて、確実に打ち合わせができるようにしていきたい。
- ・ 副任として、学習や生活面にどうかかわればいいのか分からず戸惑うことがあった。学年主任は学年経営を明確にし、見通しをもって学年会や打合せの時間をとり（あるいは伝達し）、有効に副任を活用してもらいたい。
- ・ 副任という級外が多くいるおかげで、登校渋り児童への対応や出張時の学級朝会・終会、給食などの対応がしやすかつた。
- ・ 副任を入れて3人体制で子どもたちを見ることができたので、いろいろな視点から子どもを見ることができた。学年会を設定された時間に行うことができず、いつも放課後の時間を見つけてしていた。

## **B 生徒指導上の面から**

- ・ 今年度は、学校前でのあいさつ運動やあいさつに特に力を入れて取り組んだ学級があったおかげで、元気にあいさつをする子が増えてきている。しかし、全校的にはまだ十分とはいえない傾向にある。節目、節目で、学級及び学校全体での指導をしながら一層の習慣化を図っていききたいものである。
- ・ 相手の気持ちを考えた言葉遣いができるようにするために、以下のことに取り組んだ。

### 構成的グループエンカウンターを取り入れた道徳授業の実践

自分が言われて嫌な言葉、傷ついた言葉』『言われて嬉しい言葉』を挙げ、互いに言い合い、そのときの気持ちを話し合うロールプレイングを道徳の授業で取り入れた。

#### 具体的なめあての設定と毎日の自己評価の工夫

「クラスから追放する言葉」「クラスに広めていく言葉」を話し合いで決め、全員共通のめあてとして設定し、教室に掲示した。また、毎日の終会でめあてに対する自己評価を行った。その方法として、『言葉遣いの木』を掲示し、その日自分がめあてを守れたら、『言葉遣いの木』に果物の絵を貼っていった。毎日果物が増えていく木によって自分たちのがんばりが目に見えるようにし、めあてに対する意識を途切れさせないようにするとともに、努力しようという意欲を高められるようにした。

#### 保護者への協力の呼びかけ

児童の言葉遣いは、学校だけではなく家庭や地域の影響が大きい。よって、相手の気持ちを考えた言葉遣いを身に付けるためには、特に保護者の協力が必要である。学級便りなどでクラスの実態や取組の状況を発信し、家庭での協力を呼びかけた。また、連絡帳や保護者会で家庭での言葉遣いの実態をつかみ、学級での指導に生かしていけるようにした。

取組の成果と課題については、以下のとおりである。

#### 成果

- ・ 児童に「言葉遣いに気を付けよう」という意識がみられるようになり、乱暴な言葉遣いは確実に減った。児童の自己評価でも、「学級内から悪口が減った」という記述が多くみられた。

・言葉遣いについて、家庭内で話し合ったり気を配ってくれたりする保護者が出てきた。

### 課題

お楽しみ会や遊びなどの中で、まだ自己中心的な言葉遣いがみられる。相手の気持ちを考えた言葉遣いを更に徹底させるための効果的な手だてには、どんなものがあるか。

- ・今年度から、月に1度生活指導部会が開かれ情報交換するようになったのはとてもよいと思う。
- ・学級担任だけでなく学校全体で子どもを見るということができていると思う。生徒指導上の問題や不登校の問題など、子どもが相談しやすい先生や対応しやすい先生が動いている。
- ・『「田沢っ子」の約束』をはじめ、各担当から基本計画として提案された事項について、教師が十分に理解していない点があるのではないか。その結果、児童に指導されておらず、昨年度よりも児童がルーズになった印象をもつ。教師の声がけ不足を感じる。指導すべき点について教師が気付かないのではないか。  
例えば、以下のような点がルーズになっているように思う。  
話の聞き方、児童に最後まで言わないうちに先に教師が言葉をとってしまう、廊下歩行、ベランダへ出ること、ズックのかかとつぶしばき、下校時刻を守ること（会議・研修のときは帰す）、給食や清掃のきまり（歯磨きテープが終わってから遊ぶ、赤白帽子の着用）、大量の置き傘
- ・心のアンケート後、子ども一人一人との面談をとったことは、子どもたちの自己存在感の気付きにプラスに作用した。全職員で全児童をみとる教師の姿勢に子どもたちが気付き始めている。職員室や廊下で担任以外の人と談話する子の姿が多くなった。今後は、職員間の報告、連絡、相談を密にし、多方面から一人一人の子をケアしていきたい。
- ・昨夏の研修で小学校では、「生徒指導」ではなく「生活指導」であると研修を受けた。廊下の歩き方、あいさつ、発表、話の聞き方等々、全員共通理解のもと、全職員ができることという視点をもって、月ごとの生活目標を具体的に考え、取り組んだ方が良いのではなかろうか？（ちょっと古い感じもするが・・・）  
今の生活目標に対する取組は、それぞれの学年、学級でバラバラだが、果たしてそれでよいのかと時々思う。「あいさつ運動」のような1点突破的に取組が広がるのもおもしろいと思う。悩むところである。
- ・諸問題に対する対応を、複数のチームで対応していることはとてもありがたい。
- ・さまざまな問題に対して、学級担任をはじめ、関係する職員が連携し、対応にあたっている。学級担任が、一人で抱え込まないように協力したいと思う。
- ・教育相談の時間をもっとほしいというのが実感である。普段の姿やアンケートでは得られない情報や悩みを知ることができ、もっと一人一人とじっくりと話をしたかった。もう少しアンケートを早めに実施し、教育相談の開始を早められないか。放課後に教育相談を行うことになるが、課外活動が始まるとなかなか時間が取れない。課外活動が始まる前から開始できるとよいと思った。
- ・あいさつ運動を各学年・学級において意図的に取り入れてきたことで、全校児童があいさつをするようになってきた。しかし、その中でもまだまだ自分からあいさつをしない児童がいる。全校児童が自分からあいさつをするようにするために、各学年・学級や委員会活動などにおいても、さらにあいさつ運動を進めていく必要がある。また、各家庭や地域住民にもどんどん呼びかけていく必要がある。
- ・児童の言葉遣いがやや乱れているように感じる。乱暴な言葉や大きな声、人が嫌がる言葉等が飛び交っている。各学年・学級において、言葉の使い方の指導を徹底するべきである。また、保護者会において、言葉の使い方について取り上げ、家庭での様子や学校での様子の情報を交換し合って、改善策を話し合うなどをすべきではないか。

### C 健康指導面から

- ・夜遅くまで起きていて、朝ボーっとしてる子どもが多い。このような子どもへの対応を苦慮している。厳しくいくべきか？それとも、受け入れるべきか？なんとでも決断ができない。保護者に伝えても、なかなか変わってこない。
- ・歯科保健指導では、1・3年生が学校歯科医によるむし歯予防教室、4・5年生は歯科衛生士によるすこやか歯ぐき教室、2年生は、養護教諭が指導を行った。6年生は、なんと、学級の保健係が、昼休みにカラーテスターを使ったブラッシング指導を行うなど、自主的に活動する姿が見られた。
- ・養護教諭と連携をとり、全面的な協力を得て、効果的な歯磨き指導をすることができた。

### D その他

- ・2年生や3年生が昼休みに1年生を遊びにたくさん誘ってくれた。「でおにごっこをするので、やりたい人は来てください。」などと教室に言いに来てくれると、1年生はとても喜

- び、遊びを楽しんできた。近い学年の児童が交じって遊ぶ姿は、とてもよいものである。
- ・ 「一文からの文作り」「シート記入終了者から相手を見つけての意見交換」など、授業研究や授業参観から学んだことを即自分の学級で実践する教師の姿があった。よい実践をやってみることで、指導力が向上するのだと思う。
  - ・ 教室に畳を入れ、読書をしたり休憩したりするスペースを作った。周りに本を置き、パズルや子どもの作った遊び道具も置いた。本を読むときは自然とそこに集まるようになった。友達と集まって、すごくシートを自分たちで作って遊ぶ姿も見られた。窓際には、机を並べて長机を設置した。放課後の学習でその机を使いたいと言う子どもがいたので使ってみた。「ここでこんなことをしてみたい。」と、子どもたちもこのスペースの活用方法を考えている。今後どのような成果が見られるか、これからもこの環境を維持していきたい。
  - ・ 副任の先生、入教5先生に囲まれているのは幸せ。S先生は副任ではないが、生徒指導について大きな効果を発揮している。O先生もS先生も当学級にはなくてはならない人。みんなで見ているんだと思うと私はすごく安心して学級経営に取り組める。私の手の平だけではすくえないものを、周りの先生方はしっかりと受け止めてくれる。これからの教育はこういう形でいくといい。来年もこの人数配置でいってほしい。
  - ・ 運営委員会は効果を発揮しているのか判断ができない。活発な論議のもと、活動が改善されている。しかし、やはり連絡的な要素が強いのは否めない。学年主任に慣れていないものにとって、学年打ち合わせの時間が設定されていても、行事が立て込むことで打ち合わせをとる余裕がなくなってしまった。連絡事項の伝達で打ち合わせの時間が終わり、創造的な話を煮詰めることができない。それは、自分の非力さだろうが、私の力では難しい。  
職員会議は静かで意見が出ていなかったが、連絡事項の「共通理解」を得る場としてとても有効だったと思う。学年打ち合わせは児童のことや創造的な話（構想）をたっぷりとする時間にしたいと思う。
  - ・ 課外水泳がある日に体調不良を訴える児童がいるが、身体的なものか精神的なものか、両面から見取り、精神的に弱い児童に対しては、粘り強く取り組む大切さを学ばせたい。全体的には、頑張っている児童が多い。
  - ・ 地域の方ともたくさん交流していくのはとてもよいことだと思う。長く続けてほしい。
  - ・ 全学年通して、本を読む力がかなり付いてきたのではないかなと思う。朝読書の時間を設けていることで、集中力も昨年より付いてきたと思う。今後も続けてほしい。
  - ・ 副任の配置はよかった。もし担任が休むことになって、あまり面識のない先生が教室に来ると、緊張したり反抗したりする子ども出てくると思う。特に今年の子どもたちは明るく優しい気持ちが出ているので、毎年このようにしていければいいと思う。
  - ・ 各学年に3人の先生が教えてくださるので、手厚く子どもを見ていただけているようだ。
  - ・ 今年度は本当に恵まれていると思う。先生方の目が一人一人に行き届いていて、また子どもたちもいろいろな先生に接することにより、考える力や行動力もよくなるのではないかな。
  - ・ 副任を置いたことにより、安心して任せられるのでとてもよいことだと思う。
  - ・ 各学年3人ずつの先生方がついてくださり、目も手も多く接していただけるのはとてもありがたいことだ。
  - ・ 先日初めて課外水泳を見学した。まず驚いたのがプールに入っていない子が多いこと。体調が悪い等の理由があるのだとは思いますが、プールサイドで騒いでいるのはどうかと思った。きちんと座らせて見学させる、草取り・石拾い等をさせるといった形をとらせた方がよいのではないかな。途中でプールから上がってしまい、そのまま入らない子も多かった。体調がよくない子以外は、先生方がもっと声がけしていただきたい。あれでは泳ぎが得意でない子と得意な子の差がどんどん開いてしまうのではないかな。私の目には、子どもはさぼって先生は放っておくというふうに映った。今の先生は、一緒にプールに入らないのだろうか？泳がなくても、子どもと一緒に水の中でということをししないのだろうか？
  - ・ 早くから課外水泳を始められるのは、子どもにとって励みになるし、個人のタイムも伸びるのでよいと思う。
  - ・ 勉強からずいぶん遠ざかった親にとって、子どもに教える方法が分からないというか、自分が教わった方法と今が違っている部分があったりして、下手に親が教えてはいけないのかなと思った(例えばひき算での繰り下がり)。家庭学習で、親が子どもに教える際のアドバイスをいただけるとありがたい。